

令和元年度農高・農大就農促進対策事業（農高就農促進対策助成）

事業主体名 鹿児島県立薩摩中央高等学校

1 目的

現在、本校卒業後の就農率は極めて低く、農業に関する様々な体験や講話等により、就農に向けた意識付けが必要である。

- ①農家実習 ……先進的な農家等で実際の農業を体験させ、農業技術の習得及び経営的な感覚を学ばせる。
- ②先進農家視察研修……県内の先進的な農家及び農業関連施設の見学で就農意欲の醸成を図る。
- ③就農促進講話……近隣の農家等から、農業について専門的な講話を聞き就農意欲を高めさせる。
- ④営農の門出を励ます会……本校を卒業し、自営する者、研修後自営を志す者の門出を祝し、その意志を貫くよう励ます。

2 実施状況

(1) 「農家実習」の実施

10月15日～18日の4日間、先進農家での実習を行った。

実習では農業生産の大変さだけでなく、先進的な技術ややりがい、楽しさを学ぶことができた。

農家実習を終えた生徒たちは、学校での授業や実習での取り組みに大きな変化が見られるようになり、意欲的で積極性が見られるようになった。



(2) 「先進農家視察研修」の実施

1月21日に先進農家視察研修を実施した。県立農業大学校及び先進農家を視察し、農業に関する知識を深めるとともに就農に対する意識が向上した。



(3) 「就農促進講話」の実施

2月12日に本校卒業生で果樹農家の森園和氏を講師に迎え、就農促進に向けた講話を実施した。就農後の経営状況や農業の魅力を聴き、夢のある産業として、農業の魅力を学んだ。



(4) 「営農の門出を励ます会」の実施

2月14日に農業関係の法人への就職する者を励ます会を行った。それぞれ就職先での抱負を述べ、より一層志を強くする会となった。



3 今後の課題及び取組

非農家の生徒が大半であることから、講演会や視察研修を継続的に行うことで農業に興味・関心を持たせたい。また、先進地農家での実習や研修を充実させ、一人でも多くの生徒に就農を促していきたい。